

学校法人浅井学園
北翔大学短期大学部
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

北翔大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 浅井学園
理事長名	鈴木 弘泰
学長名	遠藤 知恵子
ALO	晴山 紫恵子
開設年月日	昭和38年4月1日
所在地	北海道江別市文京台23

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
人間総合学科		150
こども学科		140
	合計	290

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	服飾美術専攻	30
専攻科	保健体育専攻	10
専攻科	初等教育専攻	20
	合計	60

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

北翔大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 6 月 13 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は北海ドレスメーカー女学園が母体であり、建学の精神は、「女性の社会的地位の向上を目指し、女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」、教育理念は「愛と和と英知」である。その伝統は現在、人間総合学科服飾美術系として脈々と受け継がれている。併設大学を持ち、当該短期大学は男女共学の 2 学科、人間総合学科（8 系）とこども学科からなっている。平成 20 年度から併設大学への編入学を促進し、専攻科については平成 23 年度以降の募集停止を予定しており、現在、在籍者はいない。平成 17 年度に発生した不祥事を克服すべく、平成 18 年度から 20 年度は、正に社会の信頼を回復し、期待にこたえるために地道な努力を続けてきた 3 年間である。平成 19 年度には校名変更も行われ、学園の改革の気概が隅々に感じられる。

平成 15 年度に本協会が認定する「地域総合科学科」として全国の短期大学に先駆けてスタートした人間総合学科は、完成年度を経て達成度評価を実施し、成果をあげていることが確認された。多様な学生のニーズにこたえる教育課程を工夫し、系の増設や系推奨科目の見直しを図り、綿密な履修指導により実績をあげている。

こども学科は小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得できる教育課程が編成され、地域に教員や保育士の人材を送り出している。

教員組織等の整備については、短期大学設置基準を大きく上回る専任教員が配置されており、採用・昇任基準も明確に規定されている。図書館をはじめとする教育研究環境は十分整備され、校地・校舎の面積は短期大学設置基準を充足している。

各担当教員は学生の満足度を高めるための工夫を行い、教育目標の達成を目指して努力している。特に就職先へのアンケートや訪問調査を実施し教育に生かすとともに、卒業生アンケートや卒業生懇談会で教育成果を確認している。

教育・研究、学生支援のほとんどが同一キャンパス内の併設大学と一体で行われている。学生は、極めて恵まれた施設や、様々なサークル活動の中で、併設大学があるメリットを最大限享受している。また、教員にとっても同様に、研究・教育環境が整

っており、待遇等も併設大学教員と同一条件とされている。当該短期大学独自の施設として唯一設置されているのが短期大学部共同研究室であり、履修相談とグループ作業等を通して教職員と学生の交流の場として機能している。

また、地域貢献大学を掲げ、地域密着型の大学を目指しており、社会的活動への取り組みを重視している。

管理・運営にかかわる理事会、各種委員会、事務組織及び人事管理等もすべて併設大学と一体である。財務体質については改善と維持に内部努力がされ、明るい兆しがみられる。

学則に自己点検に関する規定が定められ、毎年、点検・評価の結果を年次報告書にまとめ、資料編とともにウェブサイトで公表されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は、学生が幅広いニーズを持つ人間総合学科、教育・保育に特化したニーズを持つこども学科ともに、学生の多様なニーズにこたえている。
- 授業評価だけでなく、講演会、授業公開、事例集の作成及び卒業予定者との懇談等、多様で積極的な授業改善の努力がされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館は、「北海道大学図書館相互利用サービス」に参加し、学生・教員が所属の身分証で他大学の図書館での閲覧・貸出を可能としている。加えて日本だけでなく大韓民国も含めた国公私立大学図書館、公共図書館との図書館相互協力の連携を実施し、利用者に対して広域にサービスを提供できる体制を構築している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 人間総合学科は「履修記録ノート」を、こども学科は「はりぎり」(学習記録)に学生が記録したものを教員がチェックし、免許・資格取得から卒業までの学習を支援していることは、ユニークな取り組みである。
- 聴覚障がいの学生に対する支援が進んでいる。ノートテーキングのサポートや手話サークルの活動もあり、入学式には手話通訳も付けている。

評価領域VI 研究

- 科学研究費補助金については、毎年申請し、平成18年度、平成19年度は各1件、平成20年度は3件が採択されており、順調に実績をあげている。

評価領域VII 社会的活動

- 江別市教育委員会と江別市内4大学2短期大学とが連携して行っている大学開放市民講座「ふるさと江別塾」、社団法人江別市シルバー人材センターの要請に応じて運営される「子育てサポート講習」、子どもの運動能力・体力向上を目的として札幌市の区民体育館で展開する教室「げんきキッズ」等の試みが継続的に地域貢献し、市民に受け入れられている。

評価領域X 改革・改善

- 年次報告書が毎年作成されており、資料編とともにウェブサイトで公表されている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域V 学生支援

- 人間総合学科の平成20年度卒業者の進路のうち、就職希望者・進学希望者以外に該当する者の43人についての分析がされていないが、就職未決定者と同様にフォローアップ体制が必要である。

評価領域VIII 管理運営

- 学校法人の全構成員(学生は除外)に対し、学校法人の社会における位置付け、使命、役割及び公的・社会的責任を負っていることを真摯に受け止めるべく周知する必要がある。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価報告書作成において各部署の主体性を尊重した討議、客観的なアンケートの実施、事務職員の点検評価委員会への参加等、教職員全員が何らかの形

で自己点検・評価に参画することが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は、「女性の社会的地位の向上を目指し、女性にふさわしい職業的技能と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」であり、教育理念は「愛と和と英知」である。人間総合学科、こども学科においてはそれぞれ、建学の精神や教育理念から導き出された教育目的と教育目標を明確に設定し、学生と教職員等に周知徹底を図っている。

具体的には、建学の精神と教育理念を大学の玄関に掲示し、また、教育目的と教育目標を含めて、学生には学生便覧、学科通信、入学式及びオリエンテーション等で理解を深めている。教職員に対しては、学内の諸会議において確認している。建学の精神や教育の理念の解釈の見直し、教育目的と教育目標の点検を毎年行っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は、教育理念や教育目標を反映したものになっており、短期大学の専門教育と教養教育を担う十分な内容を備え、体系的に編成されたものである。またきめ細かな指導によって単位認定と適切な評価を行っている。

本協会が認定する「地域総合科学科」として全国の短期大学に先駆けてスタートした人間総合学科は、多様な学生のニーズにこたえる教育課程を目指し、3年ごとに見直しを図っており、系の設定と系の推奨科目の編成に工夫を重ねている。

こども学科は小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得できる教育課程であり、短期大学設置基準等の制約の中で、音楽・美術・体育から、一人ひとりの得意分野を伸ばすための科目編成を行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織等の整備については、短期大学設置基準を大きく上回る専任教員が配置されており、採用・昇任基準も明確に規定されている。また、教員の意欲も高く、職員等の支援を受け、教育活動は適切に機能しているといえる。

学生の学びの場として図書館をはじめとする教育研究環境は十分整備され、活用されている。校地・校舎の面積は短期大学設置基準を充足しており、各教室、情報機器室及びアパレル CAD 等の機器備品も充実している。特にスポーツ施設は多岐にわたり、ウィンタースポーツをはじめ、多様なニーズに応じる装備がされている。また、スロープやトイレ等、障がい者のニーズにも配慮した必要な整備を行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

各担当教員は学生の満足度を高めるための工夫を行い、教育目標の達成を目指して努力している。適切な評価による単位認定を行い、一方では退学、休学、留年生への手厚い配慮、もう一方では資格取得や編入希望者への対応等、意欲的な学生の教育要求を満たす姿勢がみられる。各学期終了時に実施する授業に対する満足度の調査結果は、5段階評価の2学科平均値で、平成18年度は4.14、平成19年度は4.19、平成20年度は4.24であり、極めて良い結果といえる。

両学科とも、学生の卒業後評価への取り組みは積極的な努力が行われている。特に、就職先へのアンケートや訪問調査を実施し、教育に生かしている。また、卒業生アンケートや卒業生懇談会を実施し、教育成果を確認している。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学志願者に対してはアドミッションセンターが対応し、大学案内、ウェブサイト及びオープンキャンパスを通じて建学の精神・教育理念や入試情報が提供されている。入学者選抜は入試総務委員会が組織され、厳格に実施されている。入学予定者に対しては、学生生活にスムーズに移行させるために、入学前学習支援プログラムと入学直後のオリエンテーションが実施されている。基礎学力不足の学生や、優秀な学生に対する配慮も十分されている。クラブ活動、学園行事等は併設大学と合同で活発に行われ、支援体制も確立している。キャンパス・アメニティのための施設は充実し、素晴らしい環境である。進路支援は手厚く行われており、就職のための資格取得への支援や編入学への支援も充実している。多様な学生の受け入れという点では、3年間で科目等履修生が26人という実績がある以外、留学生等は極めて少数であるが、適切な対応をしている。

評価領域Ⅵ 研究

教員は毎年研究活動状況を学長に提出することになっており、提出書類の形式も整

っている。一部で分類に不統一があったが、教員の研究活動は活発に行われている。なお、過去3年間の業績がない教員もみられた。

研究の成果は「北翔大学短期大学部研究紀要」に掲載され、ウェブサイトでも公開されている。科学研究費補助金については、毎年申請し、平成18年度、平成19年度は各1件、平成20年度は3件が採択されており、順調に実績をあげている。教員の個人研究費・機器・研究室等の整備や、研修日の確保等、研究条件は良好である。共同研究としては、併設大学付置の北方圏学術情報センター、北方圏生涯スポーツ研究センターの研究機関の研究員として、当該短期大学教員12名（平成21年度在籍者）が所属しており、センターが実施する研究会、シンポジウム等、叢書及び研究年報等、研究成果を発表する機会が確保されている。この共同研究に対しては、別途の研究費が支給されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域貢献大学を掲げ、地域密着型の大学を目指しており、社会的活動への取り組みを重視している。とりわけ、質の良い小学校教諭、幼稚園教諭及び保育士を育成し、数多くの優れた人材を輩出することが地域貢献になる。地域とかわる研究活動を推進する北方圏学術情報センターと北方圏生涯スポーツ研究センターはその成果を地域に還元している。また、公開講座を多数開設し、学び直しの場を提供している。科目等履修生の受け入れも積極的に推進している。

学生の社会活動としては、学生自身が、ボランティアやインターンシップ等をとおして、地域理解を深め、社会福祉活動を行っている。人間総合学科の服飾美術系・舞台芸術系の学生の地域におけるイベントでの活躍も目覚ましい。

国際交流としては、昭和62年にアメリカの大学と提携したことを皮切りに、海外の諸大学7校と提携し、交流関係を深めている。大韓民国とカナダの協定校については、交換留学生や学生研修団の受け入れにより、当該短期大学との学生交流が行われている。教員については、短期間ではあるが、海外派遣と国際会議出席等が毎年行われている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会、監事及び評議員会等、法人全体のガバナンス体制について、管理運営関連規則の改正、内部監査室制度を導入するなど、新理事長の指導體制の下で適切に運営をしている。

教学の最高責任者である学長のリーダーシップの下、役割・任務の在り方と教授会との一体的運営が適切に行われている。

不祥事問題の反省から、理事長をはじめとする常勤理事の下で、事務局体制も法人、併設四年制大学、当該短期大学が一体的な執務の実行に努め、極めて合理的な運営が行われている。

評価領域Ⅸ 財務

平成 17 年度の不祥事の影響による厳しい財政状況下での運営を強いられているが、その中であって適切な財務運営に向けて努力している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

学則に自己点検に関する規定が定められ、併設大学と合同の点検評価委員会が設置され、その下には点検評価小委員会と専門委員会が置かれている。自己点検・評価活動の実施体制は確立している。

毎年度、点検・評価の結果を年次報告書にまとめ、3年ごとに自己点検・評価報告書を作成している。

なお、平成 20 年度から、運営・改善のためのシステム構築を進めている。計画の達成状況を常勤理事会、理事会へ報告し、確認と修正・見直しを行うなど、努力が認められる。